

令和4年度スタート**今年度もよろしくお祈いします！**

令和4年度がスタートしました。今年度もコロナ禍の中で、Withコロナの学校給食になりそうですが、安心・安全なおいしい給食を提供し、子どもたちに喜んでもらえるように、未来を担う大切な子どもたちの健全な成長のために、信頼され、求められ、愛される学校給食会を目指してまいります。

年度初めにあたり、職員には3つのお願いをしました。

一つ目は、「安全と倫理はあらゆる課題に最優先するということ」です。本会からは、交通事故や食中毒事故、コロナ感染が出ないように気を付けてまいりたいと思います。万が一出た場合は、正直に申し出て素早く適切に対応してまいります。

二つ目は、「自分は何のためにここで働いているのか？」を常に自分自身に問いかけてもらいたいということです。初心を忘れず、「自分を磨くために働くこと」を意識して、「どうあることが一番誠実なのか」を考え、相手に喜ばれる働き方をめざしてまいります。

三つ目は、「プロとしての自信と誇りをもって職務に励みましよう」ということです。自分自身の分掌に責任をもちつつ、一人で仕事を抱え込みすぎず、チーム「秋田県学校給食会」で連携・協力しましよう、ということです。

人は、働くことで、人の役に立ち、褒められ、必要とされるからこそ、生きる喜びを感じることができません。令和4年度も働く喜びを感じられる、やりがいのある成長の一年にしたいと思います。

どうぞよろしくお祈いいたします。

秋田魁新聞「えんぴつの四季」より**「学校給食」 宇佐美直子さん(56)秋田市山王・公務員**

勤続32年になる「学校給食技能技師」の職を31日で退くことになった。

常に心掛けたのは、安全で安心な給食。夏暑く冬寒い、過酷な環境ではあったが、子どもたちの笑顔をいつも想像しながら真心を込めて調理した。最近、食物アレルギーのある子どもたちも増えたと実感した。命に関わる仕事との緊張感を持ち、栄養士らと話し合い、いろいろと工夫して対応した。食材をできる限り手切りにしたりして、残量を少しでも減らす努力もした。

意外に知られていないが、長期休みの時も、学校には毎日通った。食器を一枚一枚消毒したり、調理器具を点検したりするためである。他の仕事と同様、大変だったが誇りを持って日々臨んだ。

家庭の事情で早期退職すると決めてから、一つ一つの献立が最後だと思ふと寂しさが募った。一方、新型コロナウイルス禍のため、子どもたちが給食を無言で食べる必要があり、表情が分からなかったのは、少し残念な思いだった。

最後の出勤日。今まで指導してくれた先輩や、おいしく作ろうと一緒に頑張った同僚に感謝を伝えながら、無事に終わることができた。思いがけず花束までもらい、目頭が熱くなった。

長い間支えてくれた子どもたち、学校の先生、同僚らにあらためて感謝したい。

(令和4年3月29日(火)秋田魁新聞記事より抜粋)